

施策4 福祉の心を育む

「つながり（共生・連帯）づくり」

住民参加の地域福祉を進めていくためには、すべての住民が、地域での様々な生活課題を学習素材として福祉への理解を深め、自分と地域との係わりを知り、主体的にその生活課題の解決のために行動するという意識を高める必要があります。

このためには、子どもも大人も、福祉の実体に触れ、身をもって体験し、肌で理解することが重要です。学校や地域の人たちのこうした体験を通して、より地域に根差した福祉意識が醸成できるものと考えられます。

また、企業等も地域の一員として、積極的に地域福祉にかかわっていくことが重要です。

地域福祉を推進していくためには、福祉教育に取り組み、将来の地域福祉を担う子どもたちを育てるとともに、地域において福祉教育が実践されることが重要であることから、「福祉の心を育む『つながり（共生・連帯）づくり』」を施策の柱の一つとして積極的に取り組んでいきます。

(1) 福祉教育の充実

課 題

住民参加による地域福祉を進めていくためには、県民一人ひとりが、身近な地域での福祉活動を理解し、積極的に参加することによって、いわゆる「福祉の心」を育むことが大切です。

このため、子どもの頃から福祉を身近なものとしてとらえ、様々な体験活動を通して理解を深めながら、本格的な福祉活動に参加するきっかけを与えていくことが必要です。

福祉教育を地域に根付かせるためには、住民、社会福祉施設、社会福祉協議会、行政等が協働し、誰もが福祉活動に参加しやすい環境づくりに努めることが求められます。

施策推進の方策

ボランティア活動への住民参加を促進するため、福祉ボランティア活動への参加を体験できる機会を拡充します。(再掲)

地域全体で福祉への理解を深めるため、小・中・高校・大学と地域や社会福祉法人等との協働による福祉活動やボランティア活動を促進します。

ボランティア活動リーダーなど、地域における福祉教育の担い手となる人材の養成を支援します。

事例 20

僕たちの手で三依を活性化したい！！

(日光市立三依中学校 / 日光市社会福祉協議会)

「限界集落」と呼ばれている日光市三依(みより)地区の中学生が、教員、社会福祉協議会職員の支援を受け、地域住民で組織する「今後の三依について考える会」に参加しました。そこで彼らは、自分たちの地区について真剣に考え、三依のために何かしなければならないと思い、自分たちのできる取組を考えました。

中学生たちは、多くの人に三依を知ってもらい、観光客や三依に移住する人を増やすことを目標に、三依ならではの食材を使った「パウンドケーキ」を開発し、三依の特産物として売り出すことを目指しました。特産物や作り方、味、販売の仕方など、地元の人との協力を得ながら、試行錯誤を繰り返して完成させた「そばサンショケーキ」を地域のお祭りなどで試食していただき大変好評を得ました。

若い世代の地元への「思い」「気持ち」が、大人たちへの刺激になり、学校だけの「点」の取組から、地域を巻き込んだ「協働(線から面)」への取組に広がってきています。

ポイント！

三依地区は、人口 523 人、世帯数 240、高齢化率 50%、児童数(18 歳以下) 46 人(平成 21 年 1 月 1 日現在)の限界集落です。

地域を離れる若者が多いことが大きな課題ですが、この取組が地域を見直すきっかけづくりに役立っています。

また、「中学生」の取組に地域の「大人」が真剣に協力したことが、中学生の情操の面での大きな収穫となり、逆に若い世代の熱い「思い・気持ち」が大人を刺激し、効果的な協働に結びついています。



「今後の三依について考える会」
に中学生が参加



地域のお祭り(山のもの何でも
ござるまつり)でのPR活動



そばサンショケーキ

(2) 企業等の社会貢献活動の促進

課 題

企業等も地域を構成する一員として、地域福祉活動への参加を通して社会に貢献していくことが期待されています。

施策推進の方策

企業等におけるボランティア活動を促進するため、ボランティア活動リーダーを養成する研修会の実施を支援します。

社会貢献活動の一環として、寄附による地域福祉活動への参加を促進するため、県の栃木県地域福祉基金や県社会福祉協議会の栃木県地域福祉振興基金（栃の実基金）の周知に努めます。

企業等が取り組んでいるユニークな社会貢献活動を広く紹介することにより、企業等による地域福祉活動への動機付けをもたらし、主体的な関わりを促進します。

(社) 栃木県経済同友会では、地域住民や各種団体等と協調しながら、栃木県のために、地域に密着した経済団体として求められる協力・支援体制の確立や助成金の提供等に努めています。

【主な活動内容】

NPO、ボランティア等市民団体の支援助成

地域社会に役立ち、必要とされている活動を展開しているNPO、ボランティア等市民団体に対して支援助成を行い、年度末には支援助成団体による活動報告会を実施しています。

栃木県との災害時の協力

平成21年3月19日、栃木県と「災害時における応急対策業務の実施に関する協定」を締結し、県内に災害が発生した場合及び県外に災害が発生し応援の必要がある場合に、県の要請により、物資等の支援提供、その他の応急対策事業を実施します。

栃木県公立学校新規採用教員選考試験における面接委員の派遣

教員としての資質・能力をより多面的に評価し、有為な人物を採用できるよう、会員企業から面接委員を引き受けていただき、県の教員採用試験に協力しています。

教員の社会体験研修受入れ

県教育委員会による教員の社会体験研修事業に賛同し、各企業の業務を体験してもらう事業です。同友会でも1年間の実施研修を受け入れています。

外国人留学生との県内企業見学

県内の留学生に対して県内の企業を少しでも知ってもらうとともに、優れた企業の勉強をしてもらうために、留学生を対象にした企業体験学習を実施しています。

社会貢献事業費を活用した支援助成

同友会以外の者が行う社会貢献活動に対し、協賛金、賛助金等の資金を提供する事業です。

平成22年度から学校法人アジア学院へ3年間の期間を限定して毎年100万円の支援助成を行います。ただし、3年ごとに、見直しを行います。

オープンカンパニー制度促進事業

同友会の会員が講師となって、大学に出向き学生を対象に自らの経営理念を講義しています。

<実績> 佐野短期大学 白鷗大学 宇都宮大学

環境美化キャンペーンの協力

栃木県が毎年5月30日(ゴミゼロの日)を中心に行っている県内全域環境美化キャンペーンへの協力を会員へ依頼しています。

社員寮の開放

海外からの留学生に会員企業の社員寮を提供しています。

地域活性化イベント「秋祭り」の開催

毎年秋に宇都宮で開催される熱気球大会の会場内で飲食提供ブースを出展したり、ステージイベントを実施したりして、大会を盛り上げ、地域活性化に貢献しています。



NPO、ボランティア等市民団体への支援助成



企業見学

(株)日産自動車栃木工場

(株)日産自動車栃木工場では、企業としての社会貢献活動はもちろん、社員が社会貢献活動をしやすい環境づくりなど、会社全体としての取組が盛んです。

【主な活動内容】**日産モノづくりキャラバン**

オリジナル教育プログラムに沿って、未来を担う次世代の子どもたちに「モノづくりの楽しさ」を肌で感じながら、若年期に大切な“気づく”“改善する”ことを実感してもらう体験型の出前事業です。県内の小学5年生を対象として、年間約2,000名が体験しています。

しらさぎマラソン大会

テストコースや構内の施設を開放し、地域と一緒にマラソン大会を開催しています。約1,300名の選手が参加しています。

ふれあい見学会

福祉施設の利用者・職員と社員ボランティアが、工場見学と昼食懇談会を通じて交流を深めています。社員に対するボランティア機会の提供と実践の場となっています。

社員による交流活動「四季だより」

春は竹の子、夏はかぶと虫、秋は栗、冬は手作りサンタクロースと、四季折々のプレゼントを福祉施設や幼稚園に届けています。

日産労連栃木地方協議会

日産労連栃木地方協議会では、組合員の拠出による福祉基金を活用し、心身にハンディキャップをもつ子どもたちにいつまでも思い出に残る本物の舞台を見てもらおうと、クリスマスチャリティー公演(子どもたちのためのミュージカル)をほぼ毎年実施しています。

日産労連としては、昭和51年に日産労連福祉基金を創設して以来、この基金の活動の一つとして同年から毎年全国各地で開催し、さらに平成16年にNPO法人「ゆうらいふ21」を設立して活動の輪を広げています。平成21年までに延べ843公演で約111万名の子どもたちを招待しています。

ポイント！

企業として、また、社員一人ひとりが地域の人々や福祉施設と関わることで「企業市民」になっていると言えるのではないのでしょうか。また、その活動からは、企業と地域の Win - Win の関係が生まれています。



日産モノづくりキャラバン



しらさぎマラソン大会



ふれあい見学会



社員による交流活動（かぶと虫取り）



クリスマスチャリティー公演



クリスマスチャリティー公演



ルリちゃん

栃木県地域福祉基金

栃木県では福祉施策の充実を目的として、栃木県地域福祉基金を設置しています。

同基金は、ふるさと“とちぎ”応援寄附金の一部として、皆様から御寄附いただいています（ふるさと納税制度）。

皆様から頂きました貴重な浄財を活用して、「おもいやり駐車スペースつぎつぎ事業」や「ひとにやさしい施設マップ」、「いのちの電話相談員の養成事業」等の県域的な事業の充実を図っています。

なお、栃木県地域福祉基金の詳細や寄附受入状況等は下記HPアドレスから御覧になれます。

【栃木県HP】

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/welfare/chiiikifukushi/zenpan/chiiikifukushikikin.html>

栃の実基金（栃木県地域福祉振興基金）

栃の実基金は、地域における民間福祉活動の推進や県内におけるボランティア活動の振興を目的として、県社会福祉協議会が設置している基金です。

現在、県内各地で市町村社会福祉協議会が中心となって、地域福祉活動計画策定事業やサロン事業、地域交流事業など地域における福祉活動の推進やボランティアセンター整備事業などのボランティア活動の振興のために本基金を活用した事業を実施しています。

なお、栃の実基金の詳細や寄附受入状況等は下記HPアドレスから御覧になれます。

【栃木県社会福祉協議会HP（福祉ナビゲーション）】

<http://www.tochigikenshakyo.jp/chiiiki/tochinomi/index.html>